

親子で読む『事業承継』講座～ヒト編～ vol.1

豊田支店会報誌 BizEX 平成 19 年 6 月下旬発行号より

～争族(そうぞく)から肯敬(こうけい)へ、そして昇慶(しょうけい)へ～

【開講にあたって】

先日、60歳半ばのある社長様からお電話がありました。「息子をクビにした。今後のことを考えたいので相談に乗って欲しい。」

息子さん 38 歳、社長である父親に乞われるまま自分のやりたい仕事を泣く泣く諦め、28 歳で入社して 10 年、何とか周囲の理解と信任を得、「そろそろバトタッチしても良いのでは」との声が出始めた矢先の出来事でした。私自身、まだまだ足りない部分はあるものの、彼の意欲と能力には大いに期待していましたので、正直なところ電話の前で途方に暮れてしまいました。「どうしてこんなことになってしまったのか。」 確かに口喧嘩の絶えない親子ではありましたが・・・。

私の記憶が正しければ、私が名南経営に入社した 20 年ほど前の親族間の争いと言えは殆どが兄弟間のそれであり、親子間の争いというものとはそれほど多くはなかったように思います。否、争いそのものがなかった訳ではありませんが、それが経営に決定的な影響を与えるほどの争いには発展していなかった、というのが正しいのかもしれませんが。当時はどこかに「折り合い」というものがあつたように思います。増え始めたのはバブル崩壊の数年後からであつたと感じます。この頃にどんな変化が起つていたのか・・・。

本講座の最終ゴールは、素晴らしい事業“昇慶”を実現していただくことです。“昇慶”とは何か？

サブタイトルをご覧ください。“争族”は「相続」の当て字であり、そのまま「争う家族」を指します。相続が家族間の争いごとになりやすいことを意味しています。これでは好ましい事業承継などあつた

ものではありません。次の“肯敬”は「後継」のそれであり、「お互いが認め合い(肯定) 敬い合う」後継です。最低でもこの段階には達していただきたいものです。そして「昇慶」はまさに、「(承継によって)より一層の成長・発展を実現し、心から慶び合える」事業承継を意味する造語です。

私はこれまでのコンサルティング経験の中で、たくさんの方の事業“昇慶”を見させていただきました。冒頭の悲しい出来事を目の当たりにし、「是非他の会社においても素晴らしい“昇慶”をしていただきたい」・・・そんな思いで今回筆を執りました。同時に来る 8 月 1 日には、同題のセミナーも企画しております(詳しくは最終ページのご案内をご参照下さい)。ご期待に沿えるよう、気合を入れて参ります。よろしくお願い致します。

尚、本講座内において皆様の疑問・質問にも応えさせていただければと考えております。多くのご意見・ご質問をお待ちしております。ご協力の程、重ねてお願い申し上げます(恐れ入りますが、FAX < 0565 - 37 - 8825 > にてお願い致します)。



取締役 豊田支店統括
亀井英孝